



母校の限りない発展を祈念して

八十周年記念事業実行委員長

同窓会長 田中 仁 純

このたび母校が創立八十周年を迎えましたことは同窓生一同の欣喜に耐えないところであります。八十年という歳月を経た今日までの隆々として地域のシンボル校にふさわしい存在であることに、先輩諸氏の営々とした努力の積み重ねと地域の人々に支えられてきた実感に思を致すと、万感胸に迫るものを禁じえません。

大正十二年、能代町議会において十九名の全議員賛同のもとに、当時の岸本秋田知事に建議された意見書の冒頭には「一國文教を以つて興り、一國文教を以つて亡ぶ、教育第一それ叙説を要せんや」という文章で始まっています。この今立豊吉能代町長の名文こそは「薫も高き学び舎」、校歌の一節を象徴するものと思われれます。翌年の大正十三年十二月に創立が認可されました。大正十四年四月六日、県立能代工業講習所において二学級の入学式が挙行されています。それに先立って行われた入学試験には百名の募集に三百名近い受験者、その倍率の高さは八十年の歴史の中で未だ破られていません。一期生の一人は、当時をふり返り、大正十二年三月淳城尋常小学校を卒業、やがて能代中学ができることを知り淳城尋常高等学校高等科に入学、時至る、待ったものでした。入学できた喜びと、入学してからのテストに次ぐテストでその厳しさに驚いたし、万事につけスパルタ式であったことを語っています。初代武藤健三郎校長のもと、校風の確立をはじめ県北の雄たらしとする地域の期待を背に懸命であった様子がうかがえます。大正十二年九月の関東大震災や昭和不況への入口にさしかかっていた時節のなか、県立とはいえ地域の人々による物心両面にわたる

援助により、大正十五年八月二十一日新校舎の竣工をみる事ができました。以来八十星霜、母校は学制改革により、能中、南高校、能代高校と校名を変えながら発展してまいりました。昭和四十九年十月三十日に大英断ともいふべき、高城への永久校舎に移転現在に至っておりますが、その間昭和十九年の校舎全焼、また永きにわたる大東亜戦争とめぐりめぐり時をくぐり抜け、現在一万九千名を超える同窓生は日本国中は勿論、世界の各地に飛躍し、有為な立場で活躍をしております。

創立以来「質実剛健」の意気で「文武両道」を校是として「至誠力行」の校訓のもと、たぎる青春の血潮に友情の輪を広げあつた学び舎でありました。

近年に至り母校も大きく様変わりしつつあります。高城に移転した当時は母校だけが田園の中にぼつりと淋しげでありました。交通体系の変化と共に量販店が集中し、能代市の最もにぎわいのある周辺となり、まさに今昔の感を呈しております。また女子生徒の増加も大きな特色です。女子の一期生は昭和二十六年の入学であり、時代の要請と共に増加の一途をたどり、約四十%を超える比率を示すようになりました。なごやむ学園風景をみて、「もう少し遅れて入学したかった」と思わず本音をもらす友人もいました。優秀な女子生徒が入ることにより成績の向上につながり、男女平等の立場で切磋琢磨し合うことこそ、国際社会で活躍する人材育成の上からも必要な環境と思われれます。

女子生徒の部活動も活発であり母校の名声を高めていることは慶賀に値することと思われれます。同窓会は昭和五年三月、第一期生の卒業と同時に設立されました。会員相互の親睦と母校発展に寄与することを目的としております。この八十周年を機にさらに組織の充実と発展を期したいと念じております。最後になりましたが、創立八十周年記念誌の編纂にたずさわられた皆さんのご労苦に感謝致しますと共に母校の限りない発展をご祈念申し上げましてお祝いの言葉と致します。